

豊かな海の恵みを五感で体験し地域一丸となって保護意識育む

文部科学大臣賞 宮城県 南三陸町立名足小学校

志津川湾を囲むように森と里と川がつながり合う南三陸町。その海が眼下に広がる同校では長年、校区にある「長須賀海岸」の清掃活動に取り組む。浜辺にはペットボトルや空き缶の他、漁具などのプラスチックごみの漂着が目立ち、児童に加え、県漁協や漁協婦人部などの団体や住民たちも参加し、地域一丸となって豊かな自然環境を維持。

清掃後は、きれいになった海岸で地引き網を体験する。網に入った魚は、民宿を経営する住民が講師となり、魚の種類や生態などをレクチャー。その後は、児童一人ひとり魚を持ち帰り、家で料理して海の恵みを味わう。こうした南三陸ならではの資源を生かした体験は、海に関わる団体や住民の協力なくしては成立しない。漁業を生業とする家庭が多い地域柄、もともと海や自然環境への保護意識は強く、海岸清掃活動を契機に住民の絆が年々強固になってきた。

その効果は、学校の教育活動においても発揮される。地場産業をテーマにしたワカメの種挟みやめかぶ削ぎの体験、ワカメやホタテの養殖体験、さらに漁船に乗り養殖場を見学するなど、海の豊かな環境を育むことの大切さを、多彩な角度から五感を使って学ぶ活動へと発展。

南三陸町では現在、震災の教訓を生かした新たな自然との共生に向けたエコタウンを目指している。それに沿う形で、地域の宝である海と森と川のつながりを深く知るための取り組みも活発化。専門家を招いてラムサール条約に登録された志津川湾の干潟調査や、ノンプラスチック肥料の米作りを行うなど、児童は学年ごとに学びを深めている。

民宿を営む高橋才二郎さんは、「名足に住む人たちは、どんなに忙しくても学校への協力を惜しまない。津波で自分の家が流されて被災した人も、子どもたちのためならば、と手伝いに来るんです」と尊い絆を自負する。

東日本大震災で、同校は2階まで津波が到達。校舎は被災したが、的確な避難で全員無事だった。復旧するにあたって「同じ場所に学校を再建してほしい」と地域などから要望が寄せられ、同校は県で最も早く現地復旧を果たし、「地域の希望の船」となった。

あれから約14年半。学校を見守る住民の熱い思いは揺らぐことなく児童に伝わり、ふるさとへの愛着や誇りが着々と育まれている。



宮城県 南三陸町立名足（なたり）小学校

学校長：五十嵐 英明（いがらし ひであき）

児童数：59名（2025年11月末現在）

住所：宮城県本吉郡南三陸町歌津字中山14番地

電話：0226-36-2009

アクセス：JR気仙沼線BRT「歌津」駅から車で約5分

上：校区にある長須賀海岸の清掃活動に地域一丸となって取り組む、2左：清掃後の浜で地引き網体験する様子、2右：住民が講師となり魚の種類や生態をレクチャー、3左：地域の協力でめかぶ削ぎの体験をする児童たち、3右：専門家とともに干潟調査を実施、下：現地復旧を果たし地域の希望の船となった名足小学校